

# 2022年度 学修成果に関する アンケート調査結果報告

2023.9.27 IR室

# 2022年度学修成果アンケート結果

## ■調査対象

- ・ 2022年度在籍学生全員(908名、3月末時点)  
21Xの学生(コロナ影響あり)

## ■調査方法

- ・ 湘北ポータルでURLを送付し、パソコン・スマホを利用してGoogle Formで回答を受け付ける

## ■調査時期

- ・ 2023年2月24日～同3月7日

## ■回答数

- ・ 回答数232、在籍学生数908名 回答率  
25.6%

# 調査結果の活用・公表について

- 集計結果を教務委員会、教育課程審議会、教授会等で報告し、教育活動の改善に反映させる。
- 本学WEBサイトで公表する。

# 設問について

## ■卒業生アンケート調査

- ①「学士力」(「学修成果」に含まれる要素)について、どの程度身に付いた実感があるか
- ②学科及びコース・フィールドの「学修成果」について、どの程度身に付いた実感があるか

選択肢	点数
身に付いた	4点
どちらかというと身に付いた	3点
どちらかというと身に付かなかった	2点
身に付かなかった	1点

「学士力」の成長実感

# 【文科省が指針として示す「学士力」】

## ※「学士課程教育の構築に向けて」(審議のまとめ)より抜粋

### 1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- (1)多文化・異文化に関する知識の理解
- (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

### 2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- (1)コミュニケーション・スキル・・・日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- (2)数量的スキル・・・自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
- (3)情報リテラシー・・・ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4)論理的思考力・・・情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
- (5)問題解決力・・・問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

### 3. 態度・志向性

- (1)自己管理能力・・・自らを律して行動できる。
- (2)チームワーク、リーダーシップ・・・他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- (3)倫理観・・・自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- (4)市民としての社会的責任・・・社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
- (5)生涯学習力・・・卒業後も自律・自立して学習できる。

### 4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

# 平均点が高かった「学士力」(学科別)

身についたかどうかの自己評価(1・2年合計、4段階)

## ■「学士力」順位学科別

※()内は昨年順位

順位/ 学科	B	L	P	全体
1	専門的な知識(1)	専門的な知識(1)	専門的な知識(1)	専門的な知識(1)
2	専門的な技能(5)	自己管理能力(3)	専門的な技能(2)	専門的な技能(4)
3	コミュニケーション・スキル(3)	市民としての社会的責任(8)	創造的思考力(4)	自己管理能力(3)
4	情報リテラシー(2)	情報リテラシー(4)	市民としての社会的責任(5)	コミュニケーション・スキル(2)
5	自己管理能力(4)	生涯学習力(6)	自己管理能力(3)	情報リテラシー(5)

※「コミュニケーション・スキル」は前年に比べやや低下

# 平均点が低かった「学士力」(学科別)

身についたかどうかの自己評価(1・2年合計、4段階)

## ■「学士力」順位学科別

※()内は昨年順位

順位/ 学科	B	L	P	全体
9	創造的思考力 (9)	論理的思考力 (11)	問題解決力 (7)	問題解決力 (8)
10	生涯学習力 (7)	専門的な技能 (5)	論理的思考力 (10)	チームワーク・ リーダーシップ (10)
11	論理的思考力 (11)	問題解決力 (9)	倫理観 (12)	論理的思考力 (11)
12	倫理観 (12)	倫理観 (12)	情報リテラシー (11)	倫理観 (12)
13	数量的スキル (13)	数量的スキル (13)	数量的スキル (13)	数量的スキル (13)

※下位3項目「数量的スキル」「倫理観」「論理的思考力」の自己評価は変わらず低い

※「チームワーク・リーダーシップ」昨年に続き低い



# 「学士力」まとめ(教育課程検討に向けて)

■「情報リテラシー」は年々上昇傾向(B・L学科)  
(2020年度調査8位→5位)

■「チームワーク・リーダーシップ」は下降傾向  
(2020年度調査4位→10位)

■どの学科においても「数量的スキル」の自己評価は低い

「学士力」は「基礎学力」や「コンピテンシー」(汎用的能力、ジェネリックスキル)と関連。カリキュラム編成ではなく授業方法検討の参考資料

# 学科別「学修成果」 の成長実感

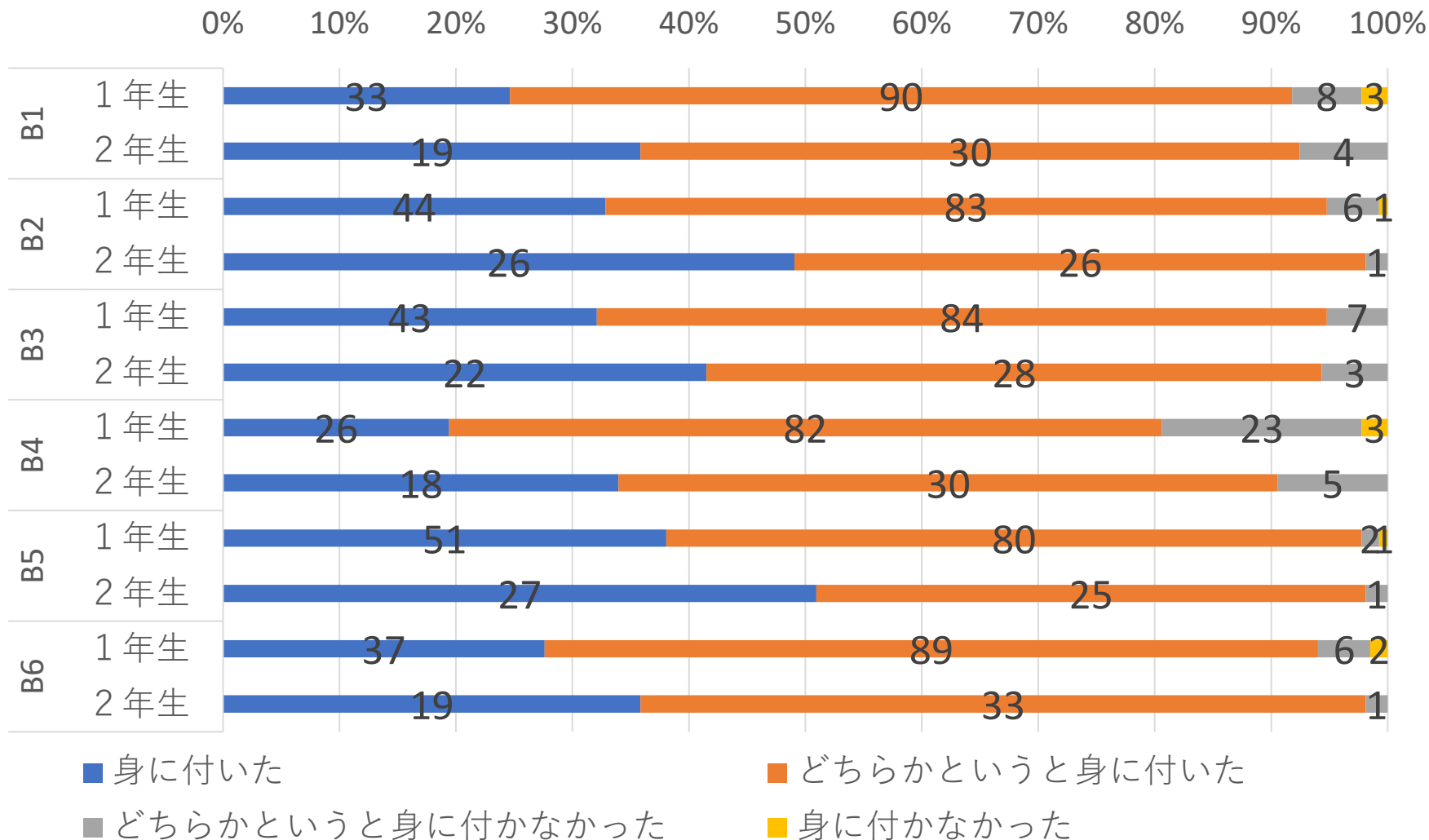
## まとめ(教育課程検討に向けて)

■2022年度卒業生(21Xの学生)について各学科の学修成果別に成長実感を調査

- ・1年次から2年次の変化をグラフ化

# まとめ(教育課程検討に向けて)

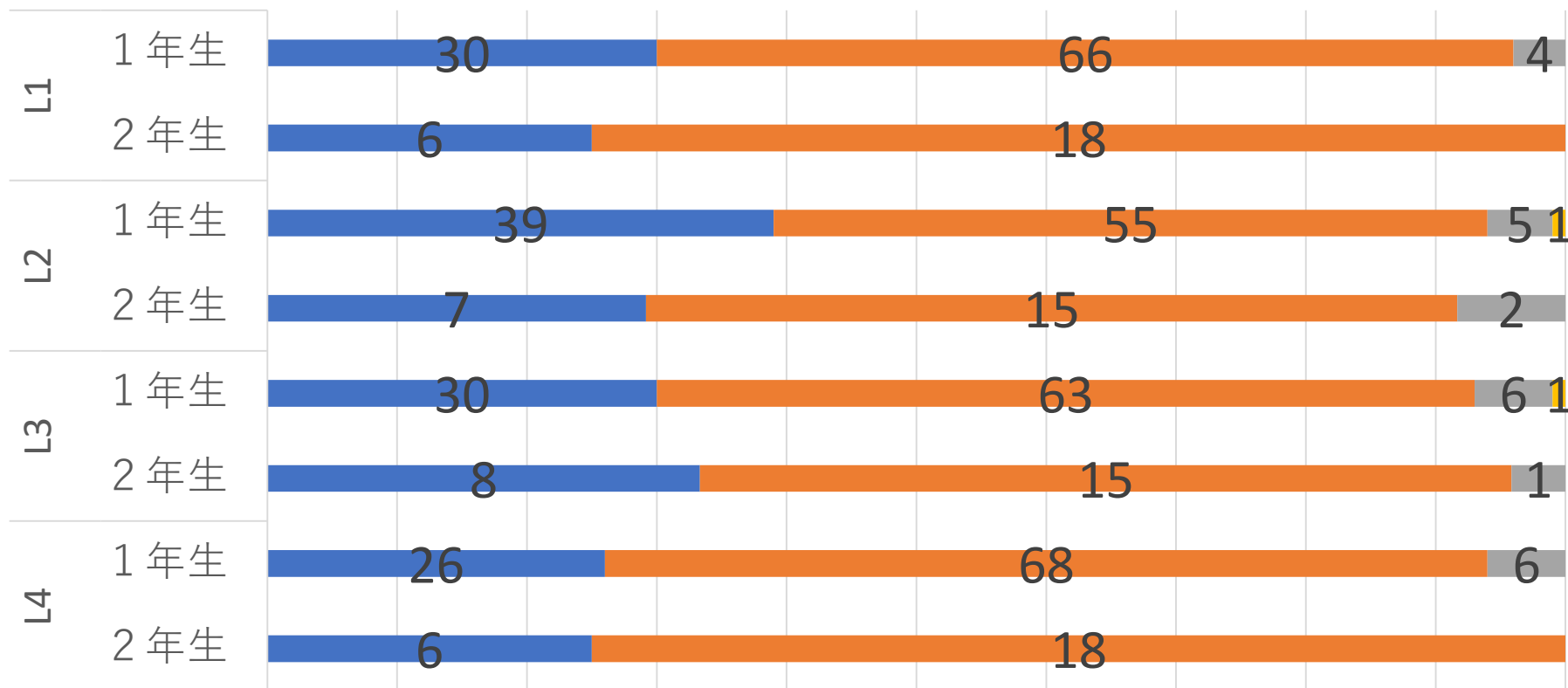
## 【21B】学修成果別成長実感



# まとめ(教育課程検討に向けて)

## 【21L】学修成果別成長実感

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 身に付いた

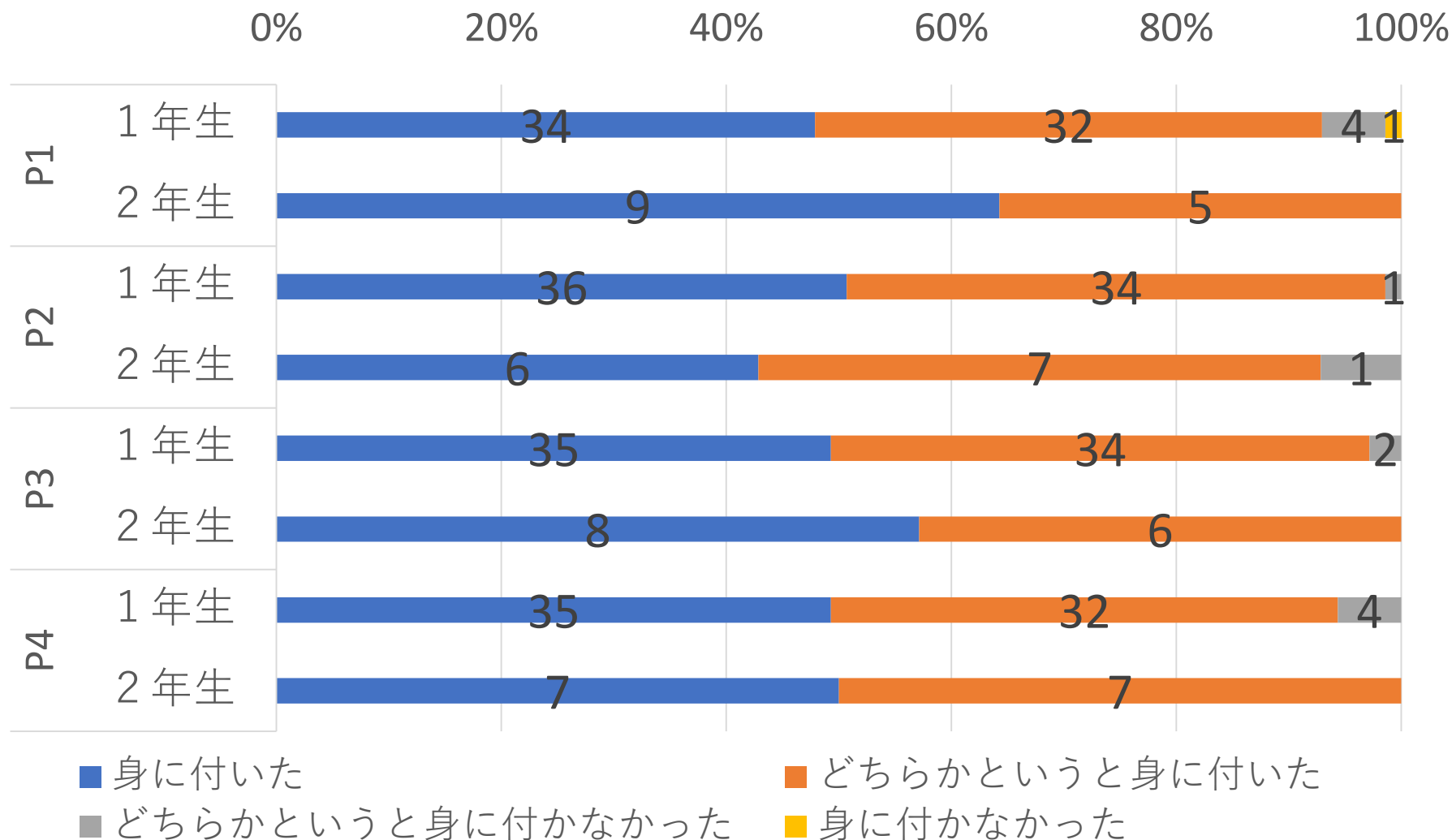
■ どちらかというと身に付いた

■ どちらかというと身に付かなかった

■ 身に付かなかった

# まとめ(教育課程検討に向けて)

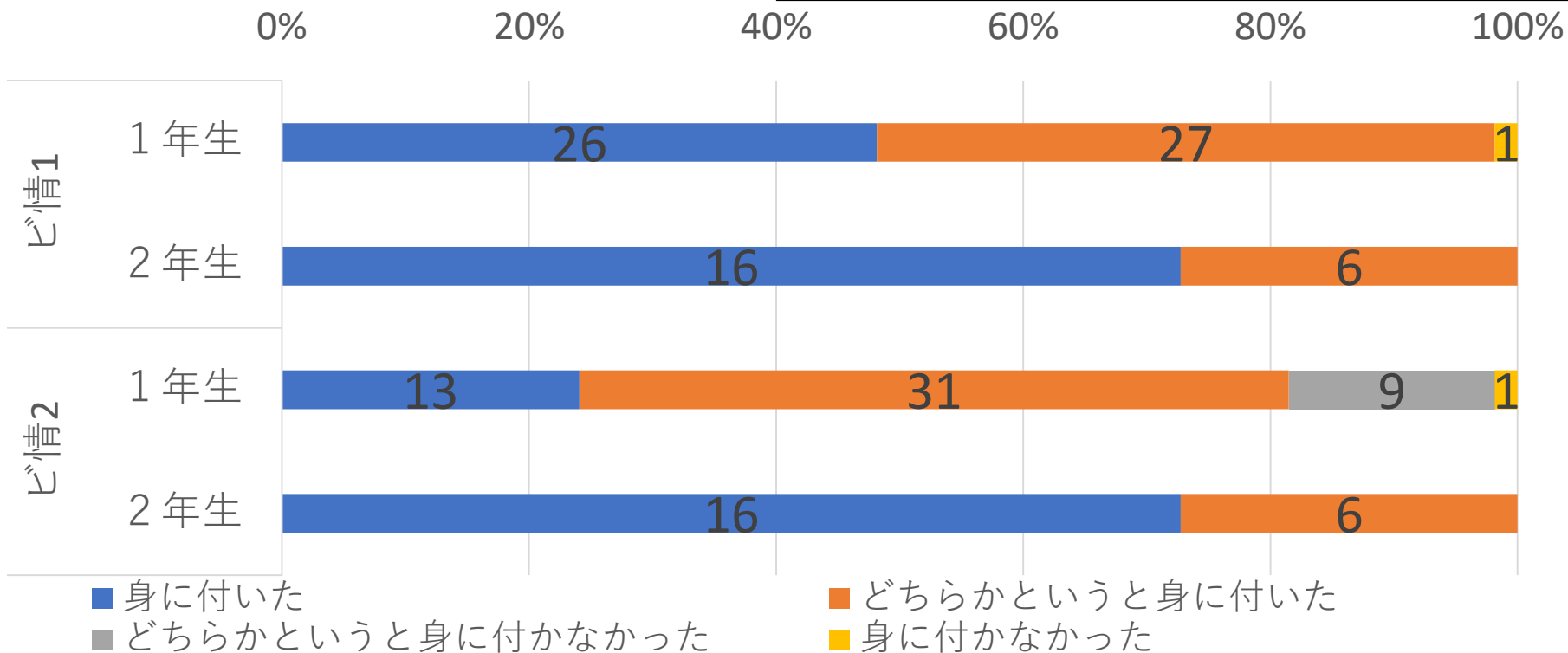
## 【21P】学修成果別成長実感



# コース・フィールド別 「学修成果」の成長実感

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

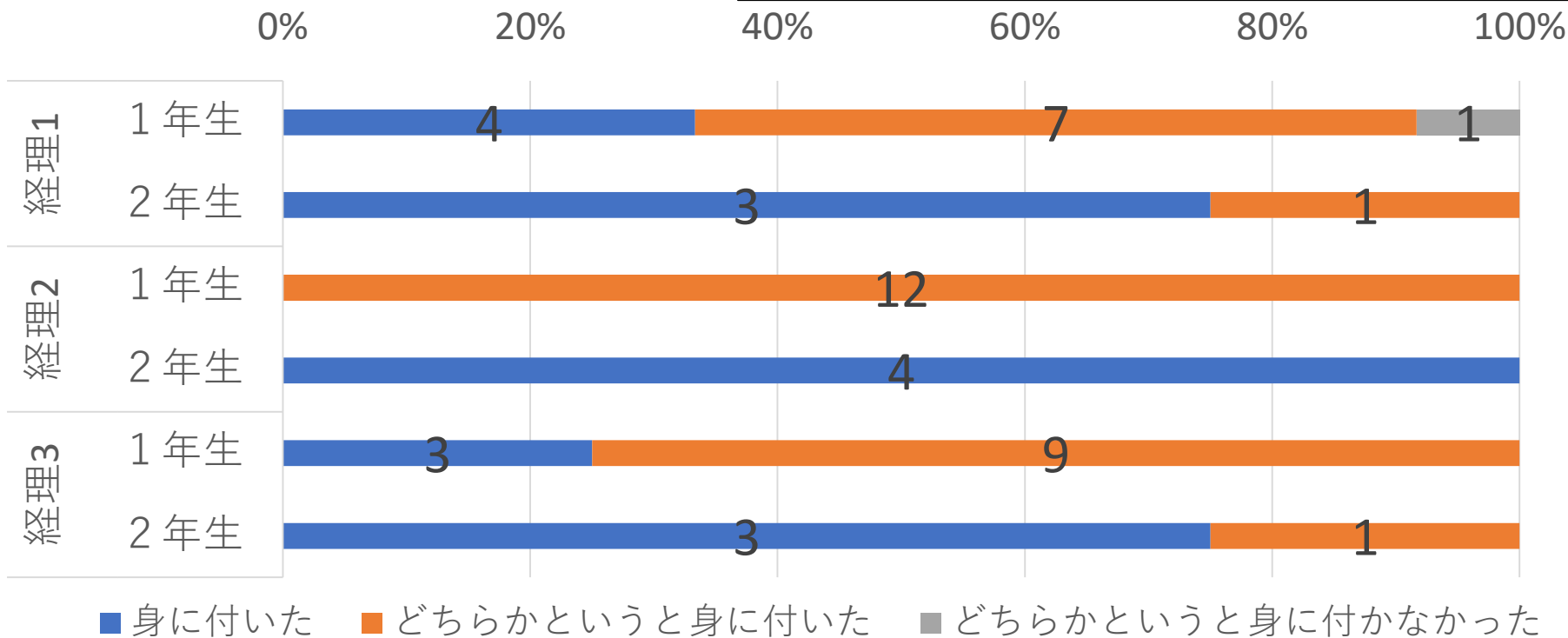


BC1	データ入力、資料作成など事務職に求められる基礎的な技能及び各種データを分析し発信する能力を身につけている。
BC2	「ビジネス能力検定」や「MOS」の取得に向けた学習を通して、マネジメントやビジネスの知識と高いパソコンスキルを身につけている。



# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）



BC3 財務諸表の作成・読解ができる。

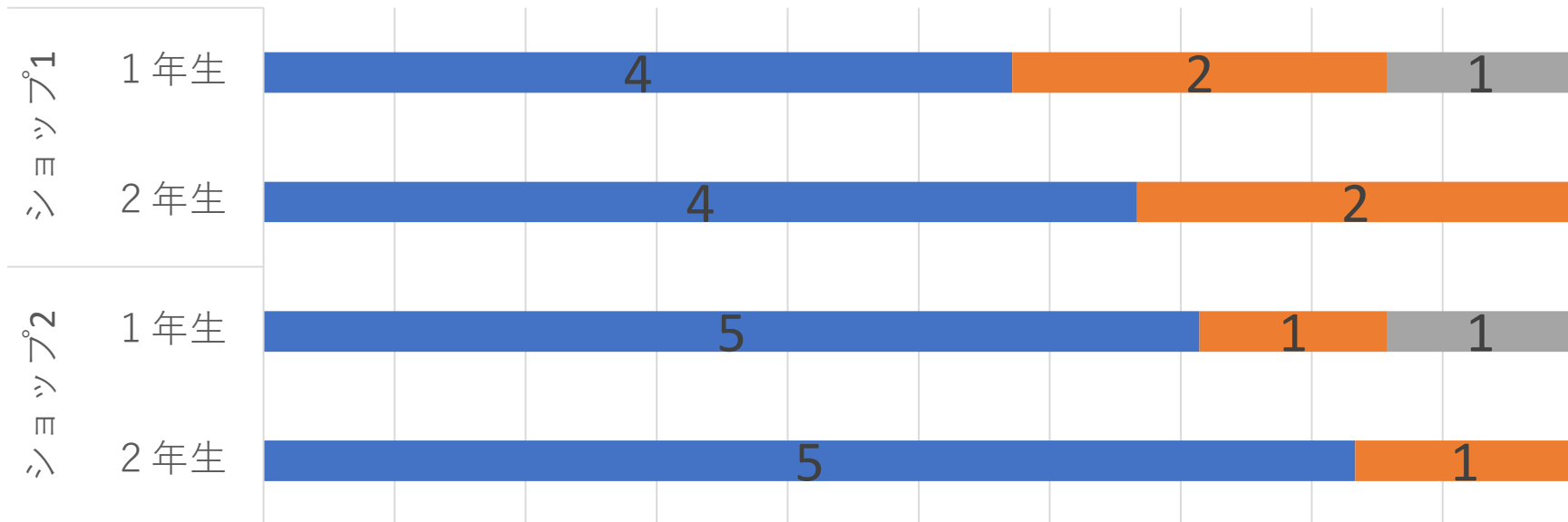
BC4 資金運用・計画に関する専門能力を身につけている。

BC5 「簿記検定」や「ファイナンシャル・プランニング技能検定」の取得に向けた学習を通して、高い計算能力と社会経済に関する幅広い教養を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

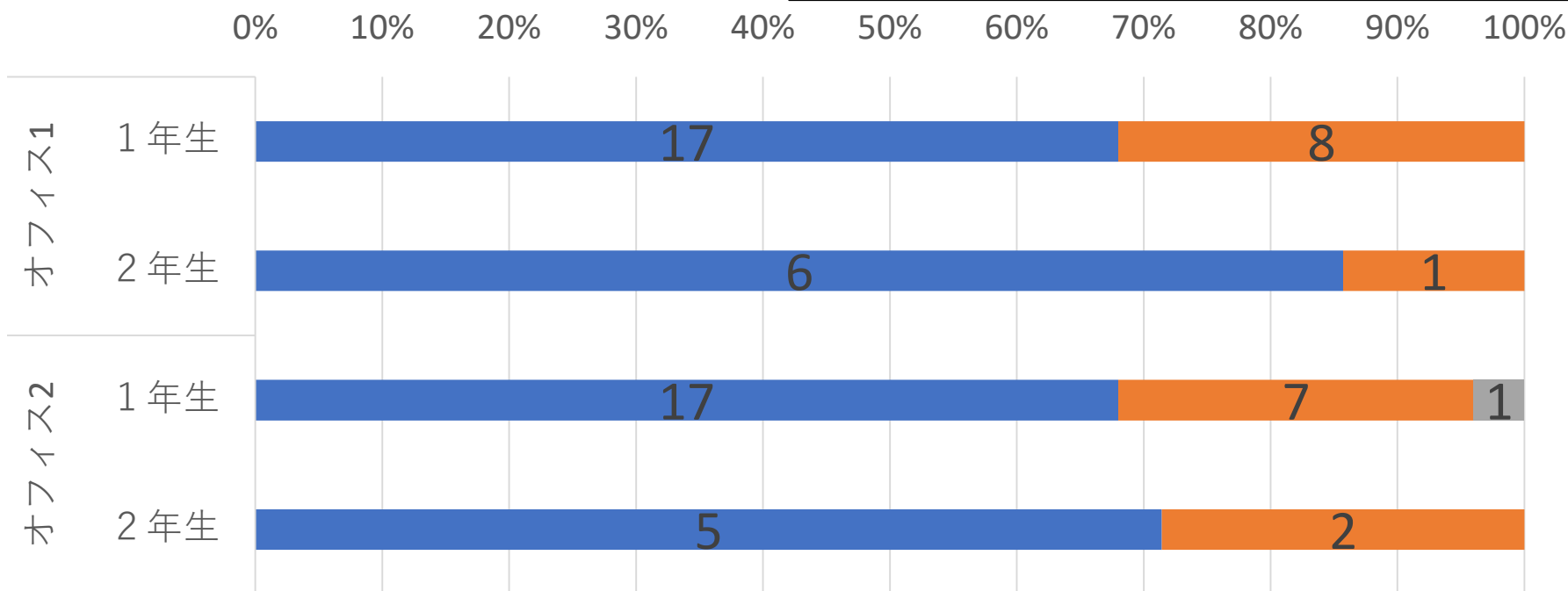


■ 身についた ■ どちらかというと思身についた ■ どちらかというと思身につかなかった

BC6	流通・販売業、各種サービス業、カウンター営業、商品企画、バイヤー、ショップ経営などに必要な技能及びマーケティングの知識や経営手法を身につけている。
BC7	「リテールマーケティング(販売士)検定」や「サービス接客検定」の取得に向けた学習を通して、販売の実践的能力を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

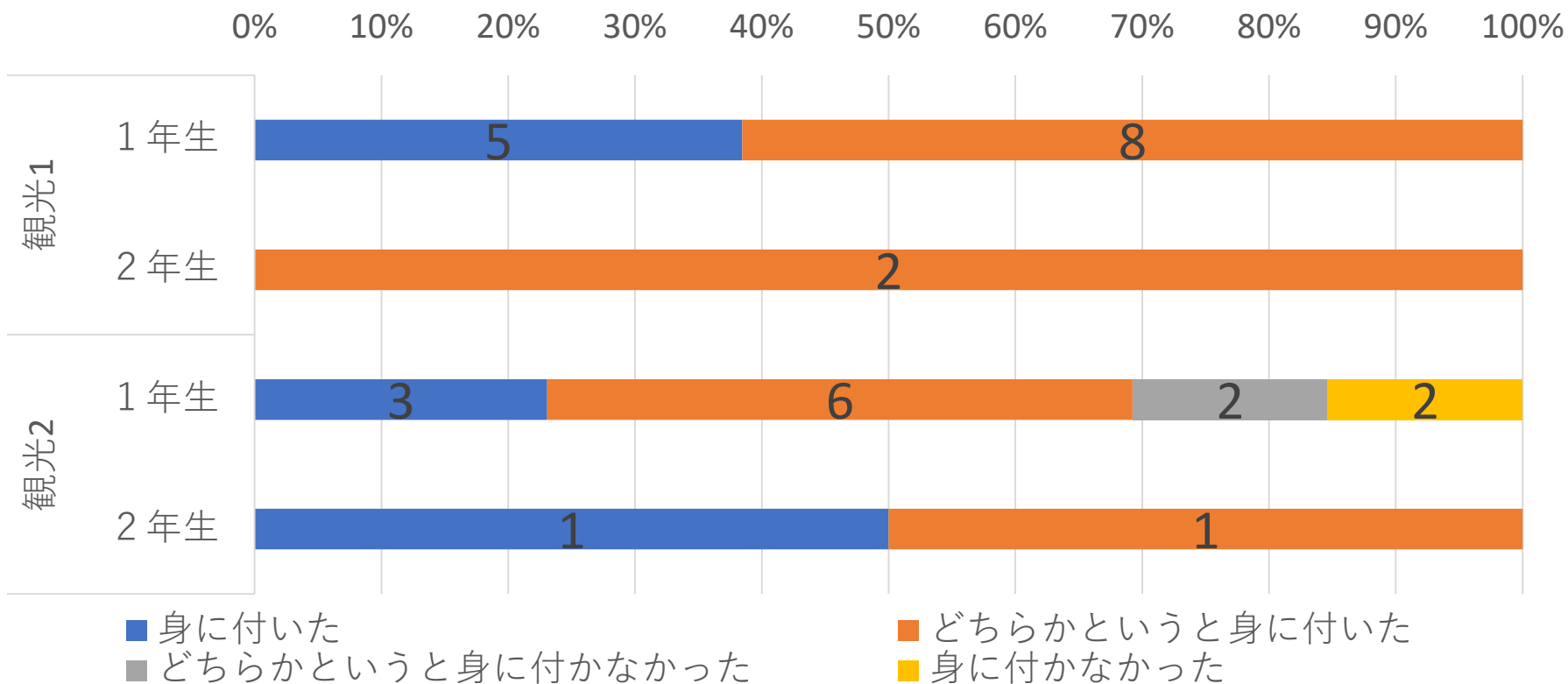


■ 身についた ■ どちらかというと身についた ■ どちらかというと身につかなかった

BC8	一般事務、受付・窓口業務、秘書など <b>様々な業種・職種で活躍できる実践的能力</b> を身につけている。
BC9	「秘書技能検定」や「コミュニケーション検定」の取得に向けた学習を通して、 <b>高いビジネスコミュニケーション能力</b> を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

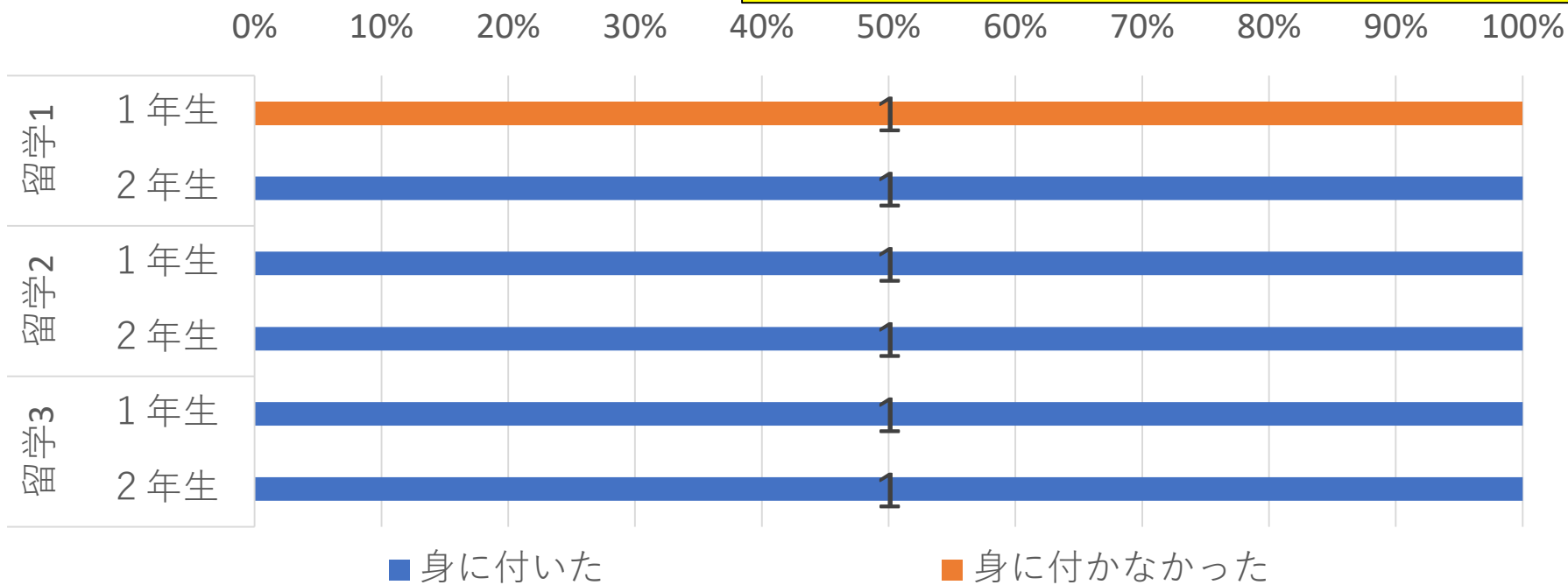
身についたかどうかの自己評価（4段階）



BC10	旅行・ホテル・テーマパークなど、 <b>観光関連業界に関する専門知識と語学力</b> を身につけている。
BC11	「国内旅程管理主任者」や「国内旅行業務取扱管理者」の資格取得に向けた学習を通して、 <b>実践的な知識や技能</b> を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

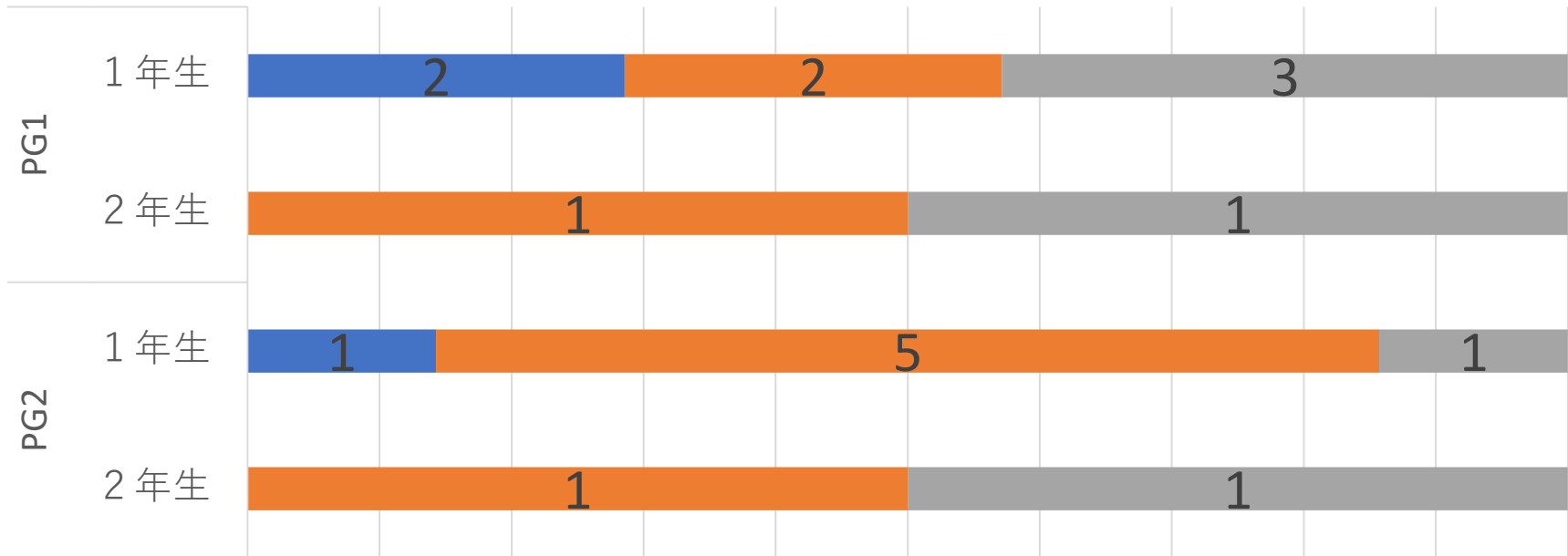


BC12	1年次後期3ヶ月間のオーストラリア国立ニューカッスル大学への留学を通して、 <b>実践的な英語力と国際感覚</b> を身につけている。
BC13	旅行・ホテル・テーマパークなど、 <b>観光関連業界に関する専門知識</b> を身につけている。
BC14	「国内旅程管理主任者」や「旅行業務取扱管理者」の資格取得に向けた学習を通して、 <b>実践的な知識や技能</b> を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

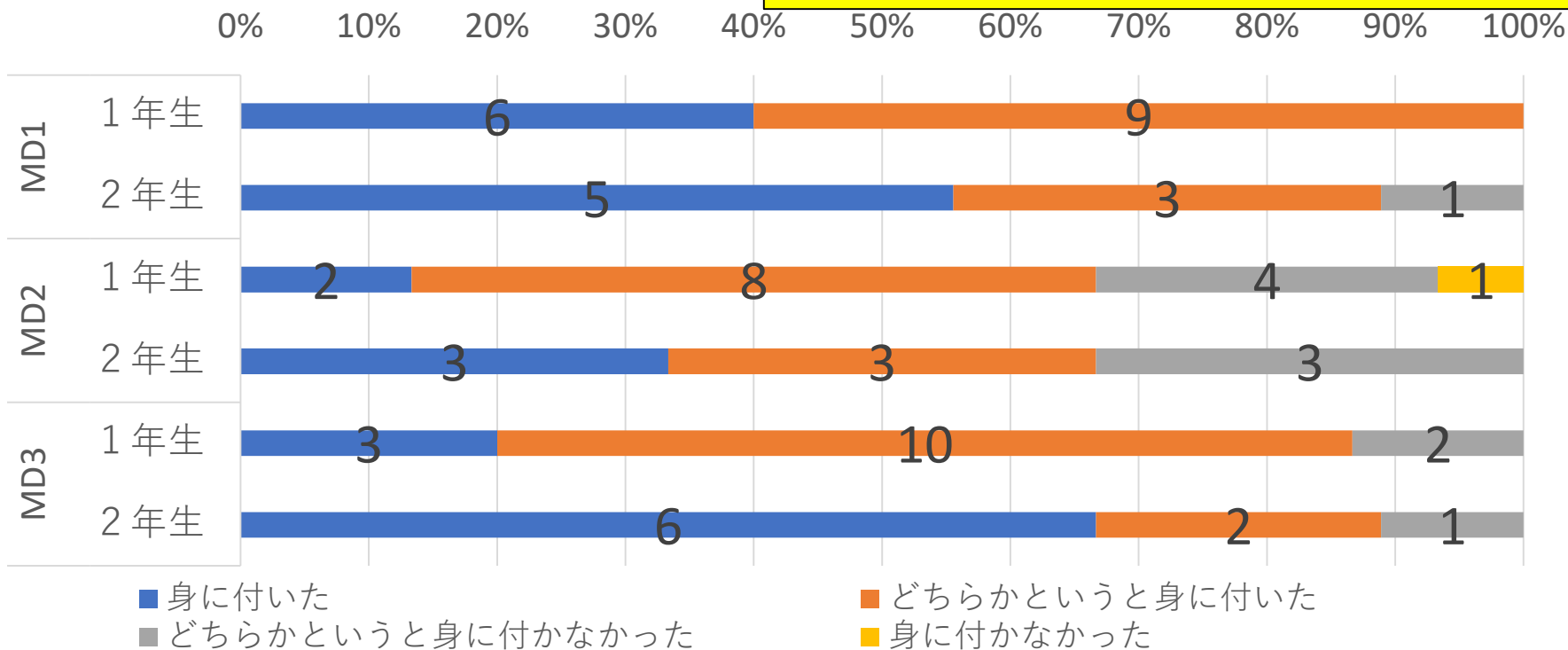


■ 身についた ■ どちらかというと身についた ■ どちらかというと身に付かなかった

BC15	プログラマーやシステムエンジニアに求められるIT活用技術を身につけている。
BC16	多様なオフィス現場でIT機器とソフトウェアを駆使できる能力及び協働して物事を進められるコミュニケーション能力を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

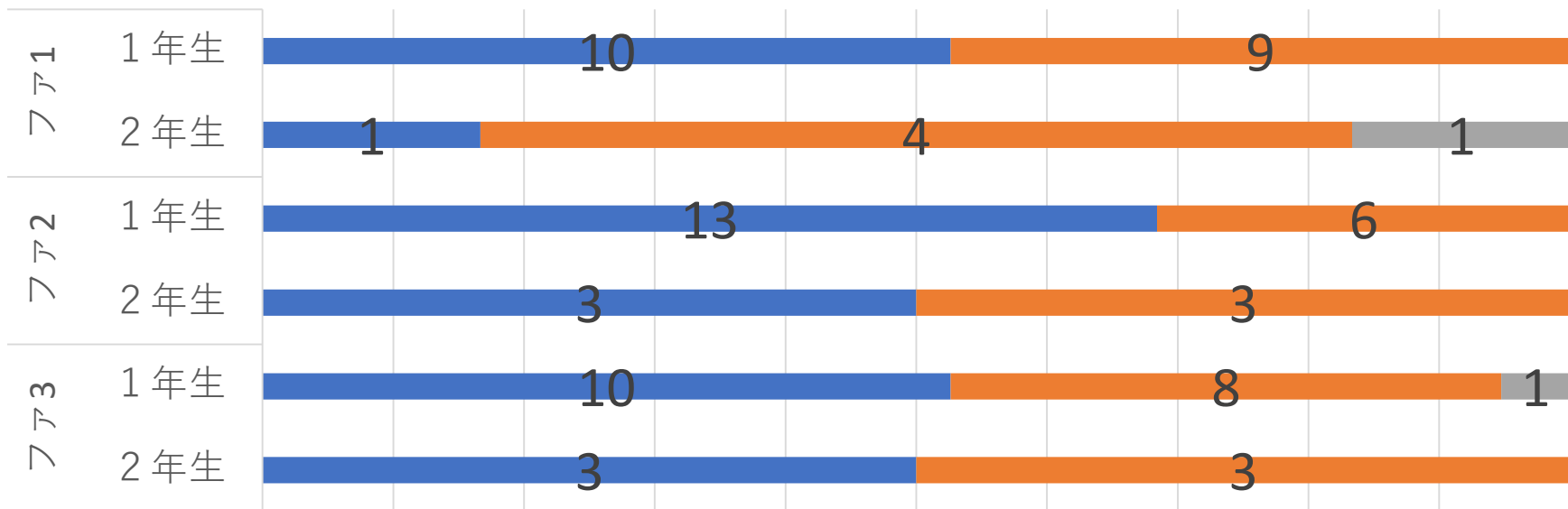


BC17	WEB、CG、映像などのメディアデザインの素養及びITを活用するコラボレーション能力を身につけている。
BC18	PCTラブルに対応できるサポート技能を身につけている。
BC19	インフォグラフィックスなどビジュアルを用いたわかりやすい情報伝達のための知識を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 身についた ■ どちらかというと身についた ■ どちらかというと身につかなかった

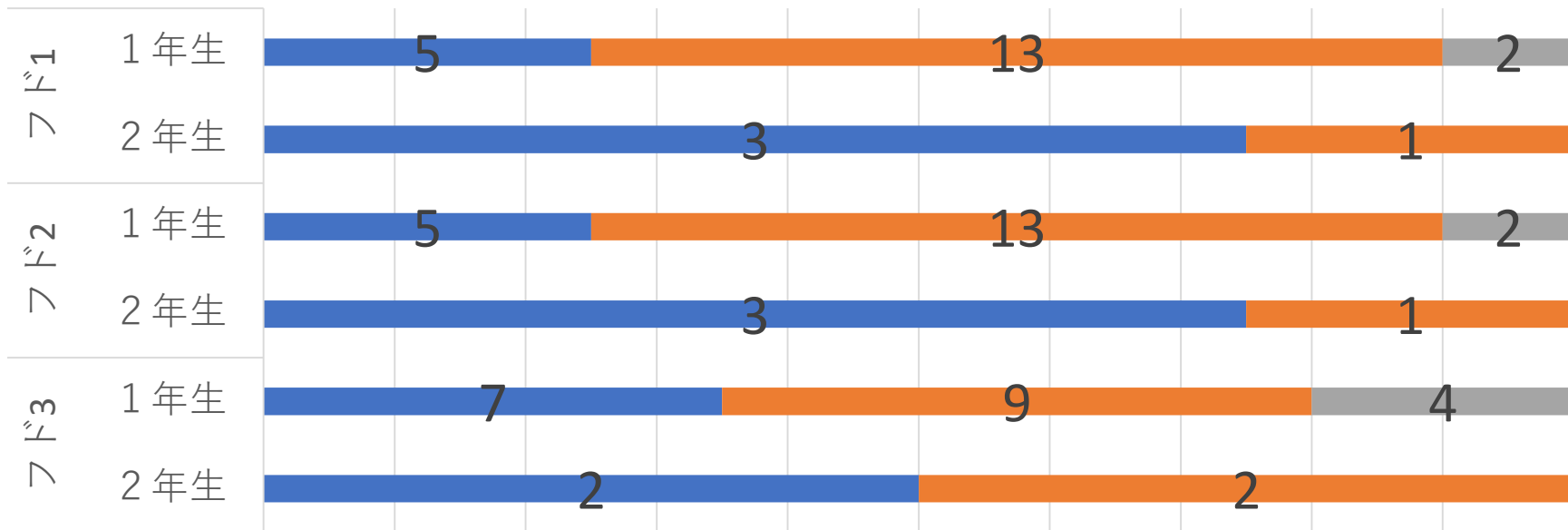
LC1	アパレル業界で働くために必要な知識を身につけている。
LC2	販売職・サービス職に必要なおもてなしの心、ビジネスマナーを身につけている。
LC3	チームで働くための協調性、様々なお客様に対応できる対応力などを身につけている。



# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



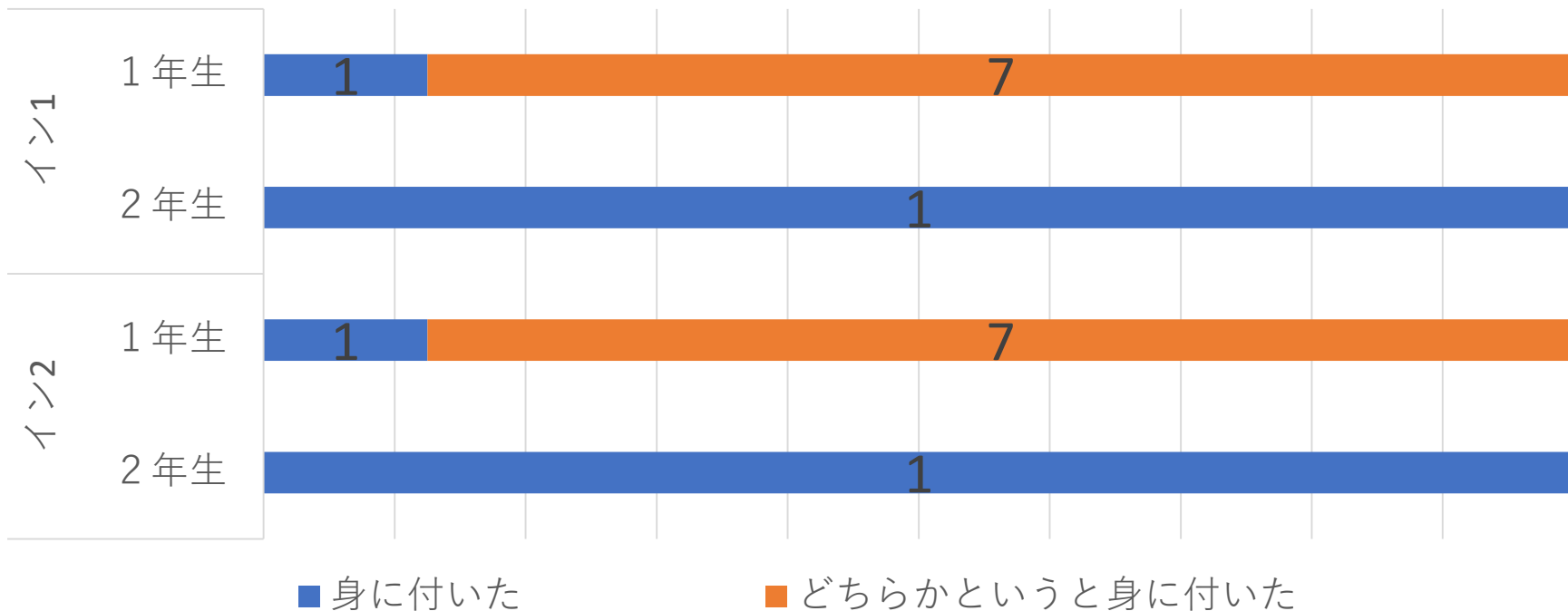
■ 身についた ■ どちらかというと身についた ■ どちらかというと身に付かなかった

LC4	栄養、調理と食文化、食の安全など、幅広い知識と技能を修得し、魅力ある食生活を提案できる。
LC5	健康な生活をプロデュースするための総合的な知識を修得している。
LC6	多彩な学びを通じ、ホスピタリティ、コミュニケーション能力、創造性を身につけている。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

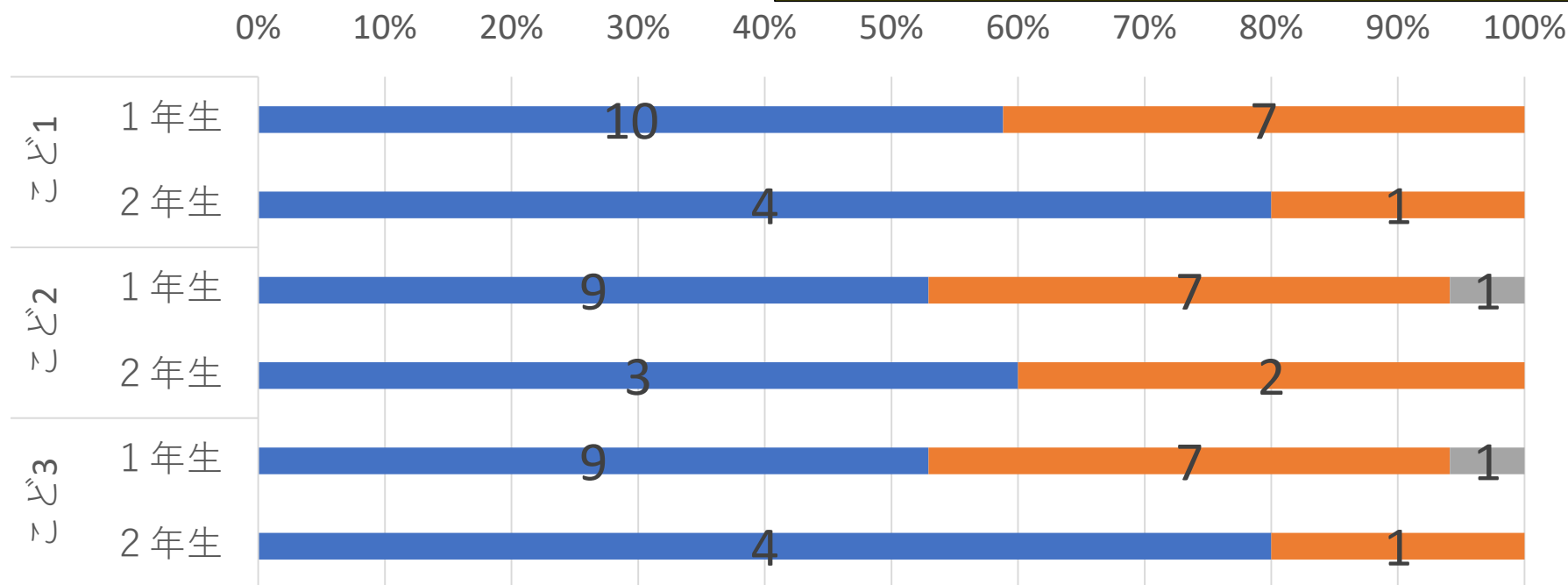


LC7 快適な住まいや安全な住環境の知識を身につけている。

LC8 戸建て住宅、マンションなど生活空間の企画・設計ができる。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）



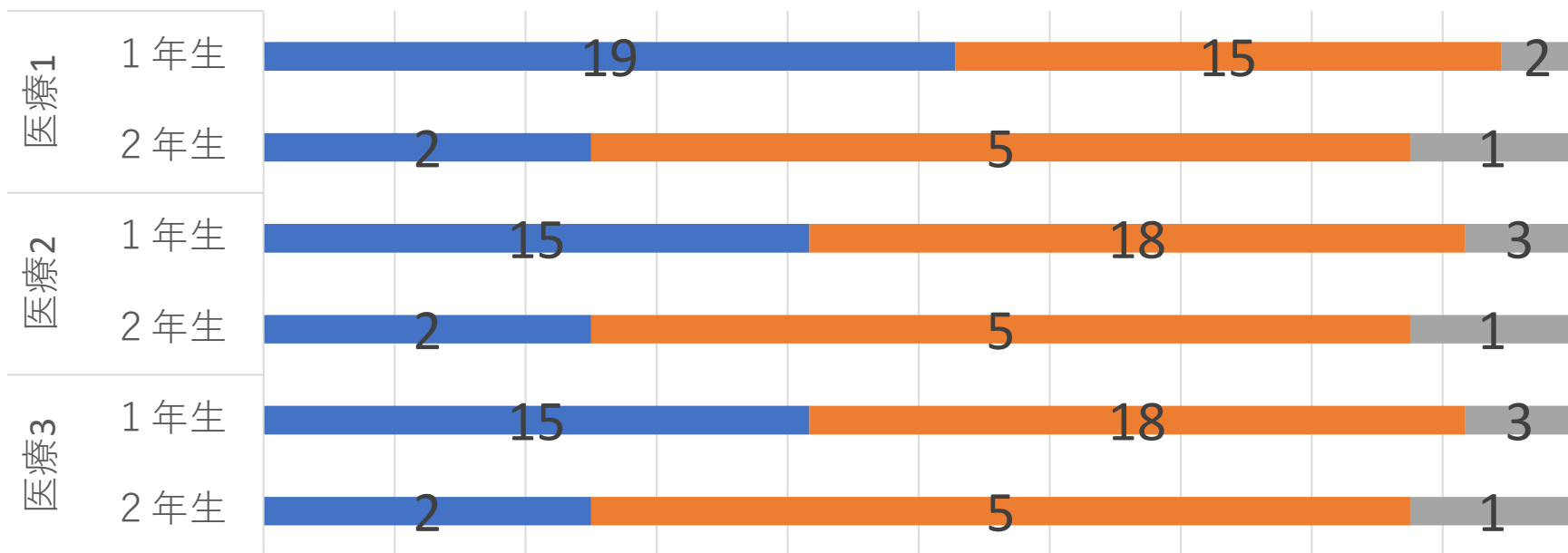
■ 身についた ■ どちらかというとな身に付いた ■ どちらかというとな身に付かなかった

LC9	現代における子どもと家族のあり方を総合的に理解している。
LC10	子どもとその家族に対するコミュニケーションスキルを身につけている。
LC11	子どもと家族を対象とした仕事に関する知識、技能を習得している。

# 「学修成果」の平均値（コース・フィールド別）

身についたかどうかの自己評価（4段階）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 身についた ■ どちらかというと身についた ■ どちらかというと身に付かなかった

LC12	医療事務職に必要な <b>知識と技能</b> を身につけている。
LC13	医療情報に関する <b>基礎知識及び技術</b> を身につけている。
LC14	医療従事者に求められる <b>ホスピタリティ、コミュニケーション能力</b> を身につけている。

## まとめ(教育課程検討に向けて)

- 特徴がみられた部分について、各学科・コースで分析を(特に1年次と比較して2年次に伸びていない項目に注意)
- 「学修成果」についても定期的に点検・見直しが必要
  - 具体的に評価可能な項目になっているか？
  - 学生が理解できる表現になっているか？
  - カリキュラムマップで科目との関連付けが正しく行われているか？
  - SDGsやDXとの関連は？ 等

## まとめ(教育課程検討に向けて)

■「学修成果」を中心にした「カリキュラム評価」について、枠組み(学修成果の整備、カリキュラムマップの整備、調査ツールの整備)を整備中

前提として「学修成果」と「カリキュラムマップ」が実質的なものであることが必要

⇒複数の調査結果について「学修成果」を中心に調査・分析を行い、カリキュラム改善に資するデータ提供を目指したい

EOF